日体魂

日本体育大学
東京都同窓会会報

第19号

平成28年6月1日発行
発行者 東京都同窓会長

高田 幸一

平成二十七年度を振り返って

日本体育大学東京都同窓会

会長 高田幸一

東京都同窓会の皆様、一年間、本会の活動にご理解・ご協力いただき心より感謝申し上げます。皆様、本当にありがとうございます。ございました。特に、今年

は大学関係者に出席頂けたことにより、現場の情報によって学生の支援がより明確になりました。課題は、まだ残していませんが同窓生一人ひとりが活動に参加して「元気をもらった！やって良かった」という強い気持ちの持てる運営を目指して

います。今まで以上、執行部一丸となって頑張ります。今後とも各支部の皆様よろしくご協力お願いいたします。

日本体育大学は、百二十五年を迎え世界一の体育大学を目指して、夢を現実にするため様々な改革を図ってきました。そして教職員や学生、施設とも名実ともに整え生まれ変わっているのを私たちも実感しています。大学が大きく前進し、学生の意識も大きく変化

しています。東京都同窓会は、全国同窓会と保護者会の方々と歩調を合わせこの変化と同窓生や学生支援に対し真摯の関わりを考えていました。

二十七年度は、大学の立ち上げた日体教学舎と連携し支援させてもらいました。将来教員を志望する学生はとても意欲的であり、大学の要請の元、それぞれの学生の力になる支援協力をしていきました。今後とも実施していきます。

教育支援委員会は、主に教育実習の特別講師派遣、教職志望の学生への指導等を行いました。今まで皆様に協力いただき、本会の主たる活動として前進してきました。同窓会の二十七年度の課題をしっかりとらえ改善し、また大学の連携を同窓会員に報告できるように継

続して行っています。

また、二十七年度の最大の課題は、何と言っても新たな**会員増強**でした。具体的な報告ができなく二十八年度に積み残しています。教職員関係の卒業生ばかりの参加ではなく、公務員関係（警察官、消防官、自衛官）や企業

関係の同窓生の同窓会への参加を図ることが急務です。近年、教員になる学生を除くと約七十%近くが他の職業を選択しています。今では、企業内の日

体卒業の集まりができています。しかし、東京都同窓会活動の参加には程遠い距離がありました。要請しても活動内容の理解と魅力がないと参加してもらえない状況でした。二十八年度には、HPの立ち上げを予定しています。さらに「日体魂」

の発刊にきめ細かい情報を取り入れ、大学・全国同窓会・保護者会・他の団体との連携を図り進めていく所存です。先達の英知を生かし、私たちもしっかり組織し運営していきます。

最後に二十七年度は関東・北信越地区連絡協議会の東京開催を準備してきました。全容をなるべく早期に皆さんへ周知できるように進行していきます。

二十八年度は東京開催ですので、ぜひ成功させるためにご協力をお願いします。東京都同窓生は、今後も会員一人ひとりを大切にする活動体制を確立します。よろしくお願いたします。

日本体育大学同窓会

関東北信越地区

協議会について

東京大会準備委員長

竹内 貞雄

日本体育大学は創立百二十五年を迎え今後益々の発展を目指しています。卒業生も全国に広がり色々な分野で大活躍です。全国の同窓会員を六ブロックに分けてそれぞれのブロックでは年一回の「地区協議会」(通称「ブロック協議会」)を開催することになっています。

関東北信越地区協議会は一都十二県(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川県、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、東京)で構成されていて、今年も東京都が「地区協議会」の当番の回りにあたり、その開催準備を進めています。

ついて意見を交換して今後の発展に寄与することになっていきます。今年の東京大会は綺麗に生まれ変わった「東京・世田谷キャンパス」母校を会場にお願いし協力を得て、次のような実施計画を立てました。

『期日』

十月八日(土)十一時から約一時間「東京・世田谷キャンパス」の母校訪問を計画しました。大学より案内人をお願いして充実した学内を隅々まで見学の予定です。

十三時から十四時三十分 松浪健四郎理事長、谷釜了正学長、瀧澤康二全国同窓会会長他多数の来賓をお迎えして各都県の出席者と合わせて約七十名が大会議室において全体会「開会式」を行います。

十四時五十分から十六時二十分 都県代表は三分科会に分かれ具体的な課題について意見交換を行います。毎年突っ込んだ意見交換が行われます。

十六時四十分から十七時五十分 再度全員が集まり各分科会報告を行います。

ます。また大学の学生支援センター、キャリア支援課より学生の動向についての報告も予定しています。

十八時から二十時 会場を学内レストランに移して懇親会を行います。

立食バイキング形式を予定。メニューに昔懐かしい駒澤かつぱの「煮込み」の持ち込みはどうか?という提案もあります。胸襟を開いてゆっくり懇談をしていただくよう計画しています。最後に校歌、寮歌を数十年ぶりに声高らかに歌い上げ、次年の福井大会での再会を約し散会の予定です。

久しぶりに母校を訪れた先生方は大学の充実ぶりを確かめ、その発展に驚かれることと思います。宿泊希望の参加者には池尻大橋の「大橋会館」を予約しました。

十三年ごとに回ってくる今回の「東京地区協議会」が成功理に終了するよう東京同窓会役員が一丸となって準備を進めております。当日の会議の様子は後日報告いたします。「平成二十七年教員希

平成二十七年年度

教員希望者向け

春季宿泊研修報告

日本体育大学

教職教育研究室

助教 門屋 貴久

望者向け春季宿泊研修」を国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成二十八年三月十五日～三月十七日の日程で実施致しました。

この春季宿泊研修は主に教員採用試験の二次試験対策として、「①切磋琢磨してお互いに自己を高め合える」「仲間」をつくる、「②教育課題等に理解を深め、その解決の在り方を学ぶ」というねらいのもと三年生(新四年生)を対象に行われたものです。

平成二十七年度は六十名定員を上回る応募があり、日本大生の意欲の高さに感心させられました。

宿泊研修の内容としては、まず現役合格者(四年生)の講話から、教員採用試験に向かう姿勢や勉強

法、心構えなどを学び、その後グループ協議、集団討論、論文指導、個人面接(模擬授業)の順で実施しました。

本宿泊研修は、教員を志望する仲間たちと教育課題に対して意見を出し合い、その課題解決に向けた話し合いを重ねることで自分自身の考えを整理し、その考えを相手に伝えるという段階的なアクティブラーニングプログラムとなっております。

グループ協議では、校種別に一〇グループ(四名～六名)作り、各グループに与えられた教育課題について担任または養護教諭としてどのように対応するのかということグループ内で話し合います。

そして、協議した結果を模造紙一枚にまとめ、発表(プレゼン)を行います。

発表(プレゼン)については、「発表内容」、「プレゼンの仕方」、「模造紙による資料の完成度」の三観点において参加者全員で評価をし、一位～三位と審査員特別賞の表彰を実施しました。すべてのグループが

明快かつ個性的な発表を行い、他のグループの発表を見聞きすることで、学生の知見がより深まったと思います。

また、集団討論につきましては、グループ同士で「集団協議する側」と「審査する側」を交互に行い、実際の採用試験に近い場を設定したうえで、緊張感のある練習を展開しました。

論文においては、本学文学研究室の今野 哲准教授に「論文を書くにあたって最も大切なこと」についてご講義を頂いた後、論文を作成しました。作成した論文については、グループごとに内容や書き方等を確認し、最終日に向けて時間の限りブラッシュアップを重ねました。

そして、最終日には日本体育大学同窓会の方々、または本学卒業の元校長先生など延べ五名の講師において頂き、各グループの論文指導と個人面接指導を本番さながらの緊迫感の中、行って頂きました。

以前は日体大を卒業すると、殆どの学生が教員になつておりましたが、今日では保健体育の免許状取得を多くの大学で導入したことにより、教員採用試験の競争も厳しく本学卒業直後には容易に就職に就けない現状となっております。しかし、日体大に入学された八割以上の学生は同窓の先輩から多くのことを学び、先輩にあれば本学に入学して就職を希望しています。その為卒業後、数年の準備期間を経て卒業生の三割余りが教師となり夢の実現を果たしています。

今後とも現場の同窓の皆様には、大変お世話になります。後輩の育成の支援にご協力ください。よろしくお願いいたします。

このように二泊三日という短い期間ではありましたが、たくさんの講師陣に支えられ、内容の濃い宿泊研修を行うことが出来ました。

今回の宿泊研修を通して一番感じたことは、日体大生の大きな可能性です。初めは、自分の考えも整理されていなく、相手に伝え

ることもままならなかった学生が最終日にはとても良い表情で自分の意見を述べている姿を見て、日体大生の吸収力、そして潜在能力の高さに感心致しました。

日本体育大学は今年百二十五周年を迎えました。これからも優秀な教員を日本中、そして世界中に輩出することを目標に頑張つて参りますのでご理解ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

平成二十八年度

教育実習直前指導

教育支援委員会

委員長

小橋川 和子

東京都同窓会の会員の皆様、教育実習では後輩が大変お世話になっております。深く感謝申し上げます。

今年も、前期実習五月末から、後期実習十一月初旬から、三週間の教育実習が始まります。

日体大の平成二十八年度の実習生の数は、九百四十八名（内東京都

百八十四名、教育実習巡回指導担当特別講師（巡回指導特別講師）四十八名）です。一つの大学で千名近くも教育実習生が存在する大学はまれであります。

今年度も、三月二十六日（土）に教育実習直前指導が世田谷キャンパスで実施されました。東京、神奈川、千葉、埼玉と自治体毎に午前・午後に分かれ指導会が開催されました。最初に記念講堂で学務課から教育実習全般について、その後巡回指導特別講師との初顔合わせです。巡回指導特別講師から約一時間にわたり実習心得、教育現場の実態と諸注意等が実習生に話されました。学生は、一年前から実習受け入れ校との連絡調整を行って

いました。

一方、巡回指導特別講師は実習校へ出向き、管理職や体育科主任への挨拶に始まり、その後実習生と面談のうえ指導案の添削等の事前指導、研究

授業への参観、そして事後指導を行います。最後

に実習記録に所見を記入し、実習生が実習記録を大学へ提出します。これと並行して巡回指導特別講師は、大学へ一連の指導報告書を提出します。

以前は日体大を卒業すると、殆どの学生が教員になつておりましたが、今日では保健体育の教職課程を設置する大学が一五六校もあり、教員採用試験の競争も厳しく本学卒業直後には容易に就職に就けない現状となっております。しかし、日体大に入学された八割以上の学生は同窓の先輩から多くのことを学び、先輩にあこがれ本学に入学して就職を希望しています。その為、卒業後数年の準備期間を経て三割余りが教師となり夢の実現を果たしています。

今後とも現場の同窓の皆様には、大変お世話になります。後輩の育成の支援にご協力ください。よろしくお願いいたします。

日体大の平成二十八年度の実習生の数は、九百四十八名（内東京都

百八十四名、教育実習巡回指導担当特別講師（巡回指導特別講師）四十八名）です。一つの大学で千名近くも教育実習生が存在する大学はまれであります。

平成28年6月1日

日本体育大学東京都同窓会 会員各位

東京都同窓会会長 高田 幸一

平成28年度 総会・研修会・懇親会のお知らせ

初夏の候、東京都の同窓の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。母校も益々発展の様子で卒業生と致しましてもご同慶の至りでございます。

さて、今年も下記のとおり平成28年度総会（総会・研修会・懇親会）を開催いたしますので万障お繰り合わせの上ご参集下さい。

記

- 1. 期 日：平成28年7月16日（土）
- 2. 会 場：（総会・研修会） 東京・世田谷キャンパス 3202教室（2階一番奥）
 （懇 親 会） 東京・世田谷キャンパス Nレストラン
- 3. 日 程：受 付 15：00～
 総 会 15：20～15：50
 研修講座 16：00～17：00
 講師： 大山 茂（学生支援センターキャリア支援部門長）
 演題： 「大学の現状と同窓の繋がりについて」
 懇親会 17：15～19：00（学内 N レストラン）
 参加費： 7,000円 学生は無料

なお、ご出欠席を7月1日（金）までに同封のハガキにてご返信下さい。また、同日までに参加費の振り込みをお願いいたします。

返信ハガキ記入のお願い

東京都同窓会は、都内23区と多摩地区、島嶼地区、企業、日体大（教職員のみ）に分けて同窓会の活性化を図っております。返信ハガキに所属希望の23区名、地区名をご記入ください。希望の所属のない方は東京都とご記入ください。勤務先や住所など複数ご希望の方は二つの地区をお書き下さい。未記入の方は現住所を所属とさせていただきます。

通信連絡費への協力金のお願い

通信連絡費への協力金を賜り誠に有り難うございました。多くの皆様から年会費としてはどうかというご意見もあり、現在役員会で検討させていただいております。

恐縮ですが、今年度も通信連絡費協力金として昨年同様に振込用紙を同封させていただきましたので一口1,000円とし、2口以上でお願い申し上げます。2口以上何口でもかまいません。

総会に参加されない方も、振り込み用紙に記入の上送金へのご協力を宜しくお願いいたします。

編集後記

今年、日本体育大学が百二十五周年を迎えます。また、日本体育大学同窓会関東北信越地区協議会が十月に開催されます。

都同窓会では、大
 学と連携し、教育実
 習巡回指導、七月の
 教員採用候補者選考
 に向け講座を開設し
 後輩の支援に取り組
 んでおります。

都同窓会の活動、
 会報第19号へのご意
 見やご感想、次号以
 降についてのご要望
 など、是非お聞かせ
 ください。